

# ウクライナ戦争の三年目を見通す

東京大学先端科学技術研究センター准教授

小泉 いずみ

悠 ゆう

- \*戦争多発で岐路に立つ世界
- \*プーチンの権威が失墜しない背景
- \*反転攻勢が不発だったウクライナ
- \*占領地域の支配堅めるロシア
- \*ウクライナが形成逆転する作戦は何か
- \*ウクライナへの軍事的支援の現状
- \*停戦論議を巡るポイントは何か
- \*ロシアの継戦能力について
- \*日本にとっても重要な抑止力
- \*接近するロシアと北朝鮮の関係



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

小泉先生に今日来ていただきましたので、改めて皆様にご紹介いたします。

先生は、2018年にパネルディスカッションでここに来ていただいてから、2019年、それからコロナのときの2021年、2022年と連続してご講演をいただきました。今日で4回目になると思います。また、中部経済倶楽部のほうでもご講演いただいております。いつもありがとうございます。

先生はテレビ等々でたいへん忙しくて、まさに引っぱりだか状態で、今日もぜひお願いしたいということまで来ていただいた次第であります。実は、皆様にご紹介しましたこの便りのときは肩書きが東京大学先端科学技術研究センターの

専任講師ということになっておりますけれども、12月1日に先生は准教授にご昇格になりました。小泉研究室も独自に持たれるということで、これからたぶん、ますます体制が整って、ご研究が進むと思います。

今日は、ウクライナの戦況が膠着していると一言で言っていますけれどもいったいどういうことなのかとか、ゼレンスキー政権は本当に盤石なのかとか、それからアメリカの支援は本当に続くのかとか、さまざまなお関心があると思いますので、今日は先生からいつもどおり精密な分析を聞かせていただければいいなと思っております。

それでは先生、よろしくお願いいたします。（拍手）